

平成 20 年度 第 5 回経済学教育 FD/IT 活用委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 2 月 10 日(火) 午後 2 時から午後 4 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席：林委員長，碓井委員，児島委員，中嶋委員，山田委員，渡邊委員，望月委員，井端事務局長，森下，恩田

検討事項：

1. 学士力の詳細設計について

文科省は学術会議で検討中。私情協の提案はミニマムリクワイアメント。今後は資料③のイメージのようなものを私情協の提案に今後織り込む。分科会の設置案を学術会議で審議。6 月までに分野別審議，中間報告を行う(資料⑥の左側ページ)。私情協としては今年の 12 月までに詳細な案を提案する。

- 英国方式が日本になじむのかどうか検討し日本にふさわしい方式を検討する 資料⑧
QAA による分野別のベンチマーク
- 学位の整理 522 の学位
- 専門教育と教養教育の枠組みを再構築 基礎教育導入教育，市民教育，異分野
- 職業との接続の分科会

平成 24 年の大学教育への提言に向けた活動のイメージ

- 学士力の設計
- 教員の教育力の評価
- 経団連との連携→産学連携人材ニーズ交流会
 - 年に 1 から 2 回開催したい
 - 協議内容・・・従業員の社内研修の様子，卒業生に欠落している点，大学教育に共通して求められる能力などの意見を伺う
 - 社会からの指摘は文系分野 卒業生の信頼性
- 入り口 高大連携テスト 大学で必要な質を高校側が保証する

ディスカッション：私情協の目的は何か？

- 学士力を実現していくための情報教育であるというスタンス
- 自己点検評価に学士力が入ってくるかもしれないという点で，大学も検討し始めた。
- 私情協の良い点は現場の先生の意見を吸い上げられる点。政治力で決まらないように牽制すべき。
- 事務組織での支援スタッフを作る(たとえば図書館員)
- 医薬科系の例

- コンセンサスがあるが、国家試験のない分野では難しい。外部試験の活用も検討に加えたらどうか
- 医学は二段階試験をやっている。5, 6 年生で臨床教育。4 年生までは診療行為の参加は許されていない。4 年生で学内認定試験を受ける。共用試験。各大学が 100 題くらい提出する義務がある。問題が 3 割程度採択され、コンピュータで試験させる。ランダムに出題。しかしそれだけでは患者とのコミュニケーション能力が見ることができないので、学内で模擬患者をつくり、患者を処方する(ビデオ撮影)
- 就職活動が終わっている時点で学士力の判定をするのか？本来なら学士力の判定は先ではないか？
- プールされた経済学の問題を厳選して出題できる(名古屋学院大学)。たとえば点数化して指標も作成できる。経済学検定試験のかわりになるか。
- OECD の 10 カ国で世界共通試験を今年か来年にやる。日本は経済は負けるので、工学がいい。しかし EU は経済で押している。
- そのほか批判力が日本の教育で必要であるとの議論が行われた。

2. 学士力の達成に向けた分野別情報教育について

3. 産学連携の具体化に向けた検討

4. 今後の検討スケジュールについて

- 次回は 6 月 20 日(土)午後 2 時から午後 4 時まで。
- 今後の検討グループ
 1. 共通能力も含めた学士力の提案
 2. コアカリのイメージと能力判定, 測定方法の検討・提案

5. その他